自他同形漢語動詞の用法についての事例検討

野　呂　健　一

キャリア研究センター紀要・年報　第9号　抜刷
高 田 短 期 大 学
令和5年3月

研究論文

自他同形漢語動詞の用法についての事例検討

野呂　健一
高田短期大学キャリア育成学科

1.　はじめに

本稿のきっかけとなったのは、文章表現の授業で学生に作文を書かせた際、(1)(2)のような表現が見られたことである。筆者なら「普及した」「開業した」とするところに受身形が使われている。(1)(2)はそれぞれ、「X が電子決済を普及した」、「X は松阪駅を開業した」という他動詞文を受身文にしたものであるのに対し、「電子決済が普及した」「松阪駅は開業した」とすれば自動詞文になる。つまり、「普及する」「開業する」は自動詞用法と他動詞用法を持つことが分かる。

(1) ?電子決済が普及された。[1]
(2) ?松阪駅は 1930 年に開業されました。

漢語動詞には自動詞と他動詞両方の用法を持つ動詞（以下、「自他同形漢語動詞」と呼ぶ）が多いことが知られている[2]。「普及する」「開業する」も自他同形漢語動詞と考えられ、(1)(2)のように他動詞から直接受身文を作ることができるはずであるが、いずれも容認されにくいのではないだろうか。

本稿では、(1)(2)のような自他同形漢語動詞の受身文をきっかけにして、自動詞用法と他動詞用法の用いられ方について、「普及する」「開業する」を例に、コーパスを基に検討する。

2. 自他同形漢語動詞について

自他同形動詞とは、同一の形態で自動詞・他動詞両方の用法を持つ動詞のことである。自他同形動詞は特に漢語に多いとされており、宮島（1972）は、自他同形漢語動詞の例として、「開業する」「普及する」を含む約 150 の漢語動詞を挙げている。

山田（2018）は、自他同形漢語動詞の、時代による用法の変化について考察を行い、自動詞または他動詞いずれかの用法に限定化をしたものがあるとし、以下の例を挙げている。

自動詞へと変化：一転する、開通する、普及する、廃刊する、倍増する
他動詞へと変化：汚染する、輩出する

山田（2018）はまた、自他同形漢語動詞「完成する」についても、「～を完成する」よりも「～を完成させる」が用いられるようになっていることから、自動詞としての限定化が進みつつあることを示している[3]。

本稿では、「普及する」「開業する」の2語について、山田（2018）と同様に、時代による自動詞と他動詞の用法の変化について考察を行う。

3. 用法が類似する構文について

3.1　他動詞文と使役文

日本語記述文法研究会編（2009）は、他動詞文と自動詞の使役文の類似性を指摘している。(3)a(4)aはヲ格を取る他動詞文であり、(3)b(4)bはそれぞれ「止まる」「入る」という自動詞の使役文である。

(3) a 警官が走ってきた男を突然止めた。
　　b 警官が走ってきた男を突然止まらせた。
(4) a 試験官が受験生を教室に入れた。
　　b 試験官が受験生を教室に入らせた。

(3)(4)のabをそれぞれ比較すると、下線部以外の箇所は全く同じであり、同じ文型であると言える。また、(3)はabいずれにせよ男が止まったという事態であり、(4)はabとも受験生が教室に入ったという事態であるため、意味が類似していることが分かる[4]。つまり、他動詞文と自動詞の使役文は構造的にも意味的にも類似しているということである。

3.2　自動詞文と受身文

日本語記述文法研究会編（2009）はまた、自動詞文と直接受身文[5]の類似性を指摘している。(5)a(6)aは自動詞文であり、(5)b(6)bは直接受身文である。

(5) a 会場のゲートがいっせいに開くと、観客は客席に殺到した。
　　b 会場のゲートがいっせいに開けられると、観客は客席に殺到した。
(6) a 駅前に大きなビルが建った。
　　b 駅前に大きなビルが建てられた。

(5)(6)のabをそれぞれ比較すると、下線部以外の箇所は全く同じ表現であり文型が同じであると言える。また、それぞれの違いは、動作主体の存在が含意されているかどうかであり、「ゲートが開く」「ビルが建つ」という事態の成立は共通している[6]。直接受身文は、「係員がゲートを開けた」「大企業が大きなビルを建てた」のような他動詞文から作られるものであり、自動詞文と他動詞文から作られた直接受身文とが類似関係にあると言える。

次章以降で、「普及する」「開業する」の自他用法の変化について考察する際に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）[7]と「青空文庫」[8]で、自動詞・他動詞の単純形だけでなく、それぞれの類似表現である受身形、使役形も併せて検索することとする。

4.「普及する」

「普及する」の自動詞としての用法と他動詞としての用法を挙げる。(7)は自動詞文の例であり、(8)は他動詞文の例である。

(7) 戦後は「豊富な資源をたくさん使うことが格好よい」という大量消費思想が普及し、それを可能にする大量生産、大量流通が「正義」と考えられた時代であった。(堺屋太一『三脱三創』、BCCWJ)

(8) 近代日本の国語史は皮肉なみかたをすれば、理想主義的改革案の挫折の歴史である。もともとは教育を普及し、民族のエネルギーを開発するのが理想であった。(梅棹忠夫『日本語と日本文明』、BCCWJ)

まず、「普及する」の国語辞典における自他の判断および意味記述を確認する

『明鏡国語辞典（第二版)』では、(9)のように記述されている。自動詞と他動詞の用法を持つことが示され、意味記述や用例でも両方が挙げられているが、語法についての補足で、「～を普及する/普及させる」では、後者が一般的であると記されるとともに、「～が普及される」という言い方が以前はされていたことが示されている[9]。

(9) 〔名・自他サ変〕社会一般に広く行き渡ること。また、行き渡らせること。
「携帯電話〔ネット販売〕が一する」「薄型テレビを一普及させる」「一率」

『新明解国語辞典（第七版)』では、(10)のように記述されている。自動詞の用法のみ持つことが示され、意味記述からも自動詞であると判断できる。

(10)（自サ）それに関する知識が行き渡ったり、その物の使用が一般に広まったりすること
「･･･の一がめざましい」「一版・一度」

「普及する」の自他の区別について、2つの国語辞典の記述は異なる。しかし、自他両方の用法を持つとしている『明鏡国語辞典』も、「～を普及する/普及させる」では、後者が一般的であるとしており、他動詞としての用法が一般的ではないことが示されている。

次に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」で、「普及する」の自他用法および使役形、受身形の用例を検索し、年代ごとに件数を表示した（表1)。

1970年代と1980年代には、「が普及する」は50%未満であったが、1990年代には70%以上、2000年代には80%以上と増加傾向にある。一方で、「を普及する」「を普及させる」はいずれも1990年代以降減少傾向にある。

表１　「普及する」の自他用法の検索結果（BCCWJ）

年代	が普及する	を普及させる	自動詞計	を普及する	が普及される	他動詞計
1970	3(37.5%)	3(37.5%)	6(75.0%)	2(25.0%)	0	2(25.0%)
1980	9(37.5%)	7(29.2%)	16(66.7%)	8(33.3%)	0	8(33.3%)
1990	71(71.7%)	15(15.2%)	86(86.9%)	13(13.1%)	0	13(13.1%)
2000	293(81.2%)	43(11.9%)	33(93.1%)	25(6.9%)	0	25(6.9%)
計	376(76.4%)	68(13.8%)	444(90.2%)	48(9.8%)	0	48(9.8%)

注目すべきは、『明鏡国語辞典』で、「を普及する」よりも一般的であるとされている「を普及させる」の割合が年代を追うごとに下がっていることである。(11)の最後の部分を、「クルマの下どり買い替えが普及した」と「が普及する」と表現するようになってきているのかもしれない。

(11) 大衆車から高級車までそろえつつ毎年型式を変えて売りだす新方式は、これまた自動車会社の別動隊として発足した信用販売会社による割賦販売にたすけられつつ、クルマの下どり買い換えを普及させた。（降旗節雄『日本経済の神話と現実』BCCWJ）

また、1章で容認されにくいと述べた受身形については、どの年代においても実例はなかった。

次に、青空文庫での検索結果は以下のとおりである（表２）。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」よりも古い年代の作品が多いが、自動詞「が普及する」と自動詞使役形「を普及させる」を合わせると80%超となる。

表２　「普及する」の自他用法の検索結果（青空文庫）

が普及する	66件（58.4%）
を普及させる	28件（24.8%）
を普及する	14件（12.4%）
が普及される	5件（4.4%）

青空文庫では、現代日本語書き言葉均衡コーパスでは検索されなかった受身形「が普及される」が5件検索された。以下に例を示す。

(12) 標語や格言は、それが普及されると、もうそれだけで、それが実践されているかのような錯覚を人々に起させがちなものである。（下村湖人『青年の思索のために』）

受身形「普及される」は「（標語や格言を）普及する」という他動詞から作られるため、受身形が少なくなっていることは他動詞用法が少なくなっている根拠になると考えられる。

以上のように、他動詞用法は年代が下がるごとに減少しており、山田（2018）のように自動詞へと変化しているとまでは言い難いが、使役形が減少していることからも、純粋な自動詞用法に集約しつつあると言えるだろう。

5.「開業する」

「開業する」の自動詞としての用法と他動詞としての用法を挙げる。(13)は自動詞文の例であり、(14)は他動詞文の例である。

(13)開湯の時期は定かではないが、千八百八十三（明治十六）年には早くも最初の施設が開業している。（本多政史『札幌から行く日帰り温泉221』BCCWJ）

(14) 広島に戻った私は、洋裁店を開業することにしたのです。（田坂博子『ヒロコ生きて愛』BCCWJ）

まず、「開業する」の国語辞典における自他の判断および意味記述を確認する

『明鏡国語辞典（第二版）』では(15)のように記述されている。自動詞と他動詞の用法を持つことが示され、意味記述も「始まること、また、始めること」と両方の用法が挙げられている。

(15)〔名・自他サ変〕①新たに事業などが始まること、また、始めること。②その日の営業を始めること、また、始まること。

『新明解国語辞典（第七版）』では(16)のように記述されている。自他の判断は両方の用法を持つとされているが、意味記述は「始めること」のみで「始まることが」がなく、他動詞用法に重点が置かれている。

(16)（自他サ）①新たに営業や事業を始めること。オープン。②営業をしていること。

2つの国語辞典とも「開業する」は自他両用であるとしているが、『新明解国語辞典』の意味記述では他動詞用法のみが挙げられており、やや他動詞用法が優勢であることがうかがえる。

次に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」で、「開業する」の自他用法および使役形、受身形の用例を検索し、年代ごとに件数を表示した（表３）。

他動詞用法が優勢であるが、自動詞用法の割合が増加傾向にある。「を開業させる」は2000年代から目立つようになる。

(17)マネックス・ビーンズ証券が二十二日、東京・銀座に有人店舗を開業させた。（朝日新聞夕刊2005/7/22、BCCWJ）

表３　「開業する」の自他用法の検索結果（BCCWJ）

年代	が開業する	を開業させる	自動詞計	を開業する	が開業される	他動詞計
1970	0	0	0	4(100%)	0	4(100%)
1980	6(50.0%)	0	6(50.0%)	6(50.0%)	0	6(50.0%)
1990	8(25.8%)	0	8(25.8%)	23(74.2%)	0	23(74.2%)
2000	35(35.0%)	8(8.0%)	43(43.0%)	56(56.0%)	1(1.0%)	57(57.0%)
計	49(33.3%)	8(5.4%)	57(38.8%)	89(60.5%)	1(0.7%)	90(61.2%)

一方、「が開業される」は全期間を通じて１件のみであった。

(18)戦後、簡易軌道と名前を換え、さらに標茶線（標茶市街―上オソツベツ原野）、風蓮線（上風蓮―奥行臼）が開業された。（河合知子『北海道酪農の生活問題』BCCWJ）

次に、青空文庫での検索結果は以下のとおりである（表４）。

表４　「開業する」の自他用法の検索結果（青空文庫）

が開業する	9 件（10.7%）
を開業させる	2 件（ 2.4%）
を開業する	73 件（86.9%）
が開業される	0 件

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」よりも古い年代の作品が多い青空文庫のほうが、他動詞用法の割合が高い。2000 年代でも他動詞用法が優勢であるものの、年代とともに自動詞用法が増えていることがうかがえる。今後、山田（2018）が調査した「完成する」のように、「を開業する」よりも「を開業させる」が用いられるようになれば、自動詞としての限定化が進みつつあると言えるだろう。

6. おわりに

本稿では、自他同形漢語動詞の用法について、「普及する」「開業する」の２語について事例検討を行った。その結果、国語辞典の記述で自動詞用法が優勢であることが予想された「普及する」については、純粋な自動詞用法に集約されつつあることが分かった。一方、「開業する」については、国語辞典の記述から予想されるとおり他動詞用法が優勢であったが、年代とともに自動詞用法が増加しつつあることが分かった。つまり、いずれの動詞においても自動詞用法の役割が以前よりも増していると言うことができるだろう。

今後の課題として、今回「普及する」「開業する」において明らかとなった変化が自他同形漢語動詞全

般について成り立つかどうか、他の動詞についても検証することが挙げられる。

注

[1] 例文の前の「?」はその表現が容認されにくいことを表す。

[2] 日本語記述文法研究会編（2009）は、漢語語幹や外来語語幹をもつスル動詞は自他同形のものが多いとし、漢語語幹の例として、「(喫茶店が／喫茶店を）開店する」「(光が／光を）反射する」「(作品が／作品を）完成する」「(論が／論を）発展する」を挙げている。

[3] 自他同形であれば他動詞文を「を完成する」を用いればいいところ、「完成する」を自動詞と認識するため、他動詞として使用することに違和感を持ち、「を完成させる」と使役形を用いるとされている（山田 2018:148)。

[4] 両者の違いについて日本語記述文法研究会編（2009）は、「使役文には被使役者に行為を起こさせるように仕向けるというニュアンスがあり、他動詞文には相手に対して動作の主体が直接手をくだすといったニュアンスがある」(p.275）と述べている。庵他（2001）も同様に、使役文は意志を持って動作を行う相手に対して強制したり促したりして動作を起こさせる表現であるのに対し、他動詞文は相手の意志を考慮に入れず出来事が引き起こされることを表す表現であるとしている。

[5] 受身文のうち、主体が動作を直接受けるものを直接受身文、主体が直接に関与していない出来事から間接的な影響を受けるものを間接受身文と呼ぶ。

[6] 直接受身文では、文中に表現されていなくても、動作の主体が存在することは含意されているのに対し、自動詞文では動作の主体は含意されない（日本語記述文法研究会編 2009:236)

[7] 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、 ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって１億 430 万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。

（国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」概要 https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/）

本稿では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版」）を使用して検索を行う。

[8] 青空文庫は、日本で著作権が消滅した文学作品を中心に、電子テキスト化したものを収集している電子図書館である。

[9]「～が普及する」は、もと「～が普及される（自発)」とも。「近代では洋服が－されたが、〈寺田寅彦〉」(『明鏡国語辞典（第二版)』)

引用文献

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2001)『中上級を教える人のための日本語ハンドブック』スリーエーネットワーク.

日本語記述文法研究会編（2009)『現代日本語文法２　第３部 格と構文　第４部 ヴォイス』くろしお出版.

宮島達夫（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.
山田勇人（2018）「自他同形漢語動詞の自他の変化に関する考察」『神戸医療福祉大学紀要』19 巻 1 号, pp. 145-154.

『新明解国語辞典』（第七版），山田忠雄、柴田武、酒井憲二、倉持保男、山田明雄、上野善道、井島正博、笹原宏之編（2011），三省堂
『明鏡国語辞典』（第二版），北原保雄編（2010），大修館書店

「青空文庫」https://www.aozora.gr.jp/
「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版」https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/